

新連載 Q&A 堀先生に聞いてみよう ①



今回から、鶴瀬恵みキリスト教会牧師の堀肇先生ほりはじめにご回答いただきます。読者の皆さまからのご質問をお待ちしています。

【質問】

私の息子は、大学卒業後就職しましたが、会社になじめずに辞めてしまい、その後就職活動をすることもなく家にいるようになりました。現在30代ですが、社会に出て働く意欲がわくどころか、ほとんど自室に閉じこもっております。これから私たち夫婦がどのように接したら、息子が自活できるようになるでしょうか。

【回答】

人の子の親なら誰でも、わが子が学校を出てせっかく就職できたのに、会社を辞めてしまい自室に閉じこもっている姿を見るのは何とも辛いことです。ことに、その引きこもりの状態が長期化し、本人の不安感や孤立感が強くなってきますと、親の方が精神的に追い詰められ、うつ的にもなってしまう。

最近ではマスコミの過熱した引きこもりやニートの話題が少し収まって、ほっとしていますが、この問題を抱えている方々は今も多くおられ、親も子も悩んでいる現実には変わりありません。では、どうすればこの難しい課題を乗り越えていくことができるのでしょうか。対応は相手によって異なりますが、少なくとも、次のような点をよく理解し、対応してほしいと思います。

●引きこもりは悪循環の中で

若者が学校を出て就職しても、間もなく仕事のストレスや人間関係の葛藤・緊張がきっかけで社会生活から身を引いてしまうような場合、それを怠けているとか意気地がないなどと単純に考えないでほしいのです。就いた仕事になじめなかったり、思わぬ欠点や弱点を指摘されたりして自信をなくし、立ちすくんでしまつて、ついに心も体も身動きが取れなくなり、社会生活から撤退せざるを得なくなったのです。このようになってしまふ人の多くは、もともとまじめな人ですから内心では、周りの人たちと同じようにがんばらなくてはならないと人一倍思っていると考えてよいでしょう。

ところが家族や周囲の人たちの多くは、そこ

をよく理解できず、成人した大人が働かないのは甘えだと、つい批判してしまうのです。そして撤退が長引くと、親は我慢ができなくなり、何としても就労させようと叱咤しったげ激励する、すると子どもはそこから逃れるためにさらに引きこもる、こうなると親は焦りを深め、さらに叱咤激励を強めるといった形で悪循環がくり返されることとなります。これにはこの時代の社会的な環境も悪循環を増幅させていると思います。よく指摘される「履歴書の空白問題」などがそれです。

いずれにしても勤勉を美德として来た文化の中では、社会に定着するための試行錯誤や立ち止まりに対する理解は乏しく、「引きこもり」の問題は常に就労の有無に議論の焦点がおかれ、当事者は誰と話しても引きこもりの苦しさを理解してもらえず、家庭も社会も息苦しいところとなってしまうのです。この息苦しさは理解されず「働くべし」という社会的価値観や規範だけが要求されますと、ストレスがこうじ様々な精神症状や問題行動が出やすいのです。(以下略)